

# 短大生の短期大学教育に対する意識と評価 —短期大学生調査の経年分析から—

2018.06.10@筑波大学

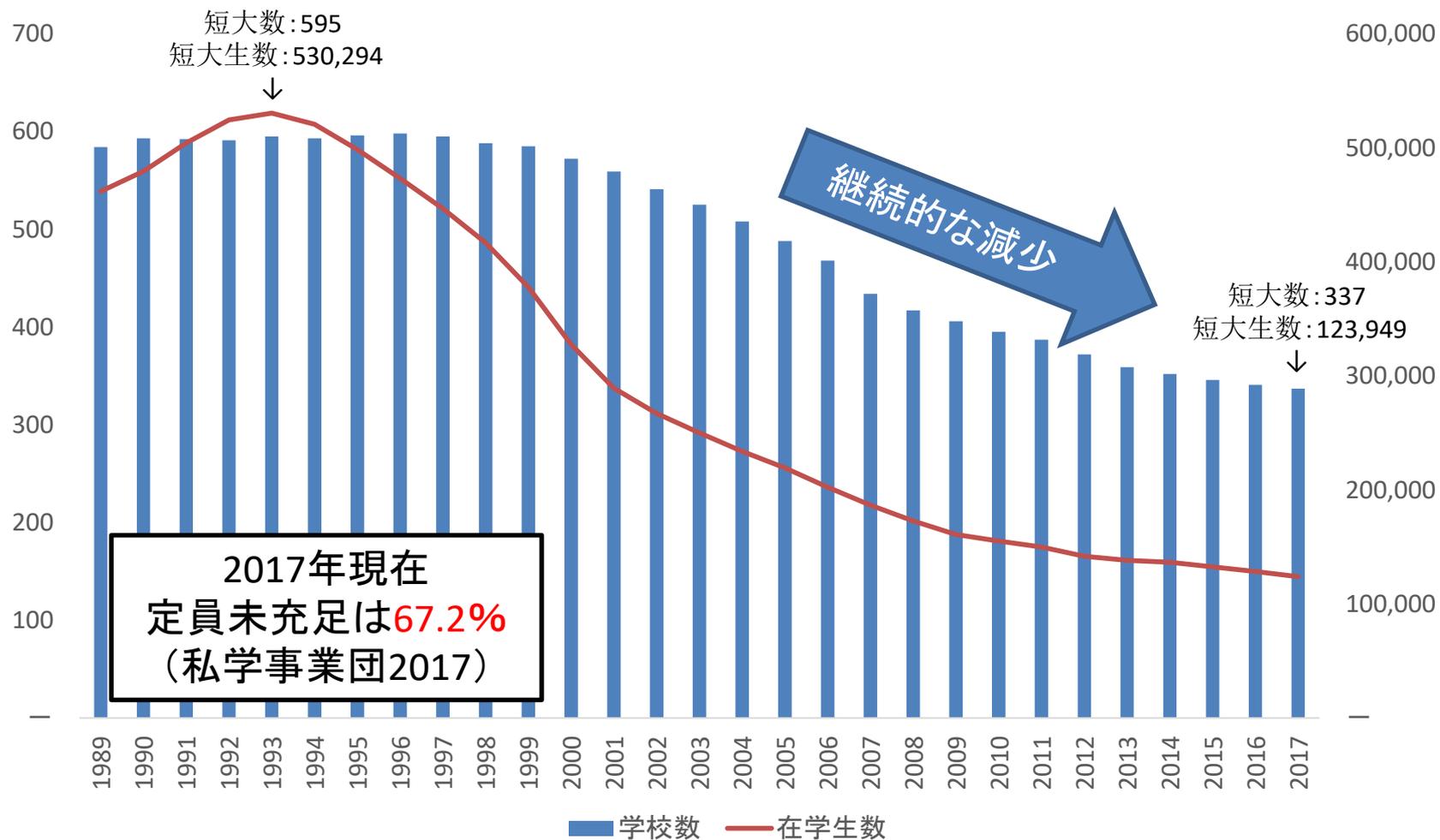
○宮里翔大(桜美林大学大学院)  
堺完(立教大学)  
山崎慎一(桜美林大学)  
黄海玉(短期大学基準協会・非会員)

# 発表概要

- 短期大学を取り巻く状況
- 本研究の問題意識
- 短期大学生調査 (*Tandaiseichosa*)とは
- 分析結果
- 考察
- まとめと今後の検討課題

# 短期大学を取り巻く状況(1)

## — 学校数と在学生数の推移 —



# 短期大学を取り巻く状況(2)

## 一分野別在籍者数一

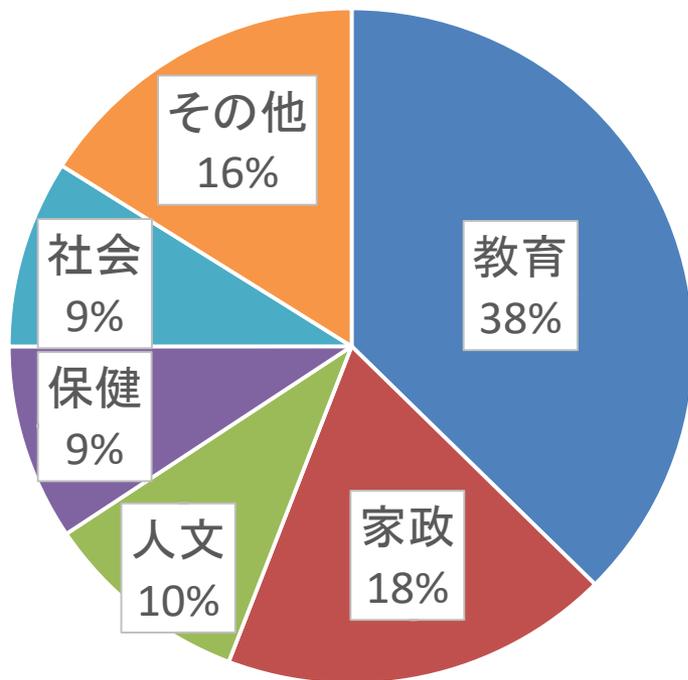


表 分野別在籍者数(2017)

分野	在籍者数 (人)	比率
教育	44,825	37.4%
家政	22,027	18.4%
人文	11,733	9.8%
保健	11,206	9.4%
社会	10,751	9.0%
その他	19,186	16.0%
合計	119,728	100.0%

近年、人材需要が高い領域(保育・栄養・看護)への人材養成機能を有している。

⇒地域のニーズに合わせた教育を積極的に推進。

# 短期大学を取り巻く状況(3)

## —日本の高等教育における短期大学の役割—

「短期大学の今後の在り方について(審議まとめ)」では、短期大学の役割・機能を以下のように示している。

- ・学位(短期大学士)取得が可能
- ・認証評価等により、教育の質が保証されている
- ・教養と専門教育の双方を学ぶことができる
- ・汎用的職業能力の育成している
- ・小規模できめ細かい教育を実施している
- ・アクセスが容易である

# 短期大学を取り巻く状況(4)

## —短期大学が今後求められる役割—

「短期大学の今後の在り方について(審議まとめ)」では、短期大学が今後求められる役割として、以下の点を挙げている。

- (1) 専門職業人材の養成
- (2) 地域に密着した高等教育機関としての活用
- (3) 高等教育のファーストステージとしての期待と可能性
- (4) 生涯学習機能の充実—多様な生涯学習の機会の提供

# 短期大学を取り巻く状況(5)

## —内部質保証の重点化—

2018年4月より、認証評価は第3クールへ

⇒**内部質保証**は重点評価項目へ／学生の実態把握が必要  
不可欠に

「学校教育法第一百十条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令の一部を改正する省令(平成28年文部科学省令17号)」

- ① 重点的に認証評価を行うこととされた内部質保証に関することについて、優れた取組等を実施していると評価した大学等に対し、次回評価において評価内容及び方法の弾力化により評価の効率化を図ること。
- ② 大学等の教育の質的転換を促進するため、各大学等が学生の学修状況の把握・評価の実施状況についての評価に取り組むこと。
- ③ 評価の過程において、認証評価と社会との関係強化等の観点から、高等学校、地方公共団体、企業、学生等からの意見聴取に取り組むこと。
- ④ 認証評価に係る各大学等の負担の軽減のため、国立大学法人評価などの他の評価における教育研究に関する評価資料及び結果も活用した評価に取り組むこと。

# 本研究の問題意識

## 本研究の問題意識

縮小傾向にある短期大学であるが、そこで学ぶ学生がどのように意識し、評価しているのかを検討し、その結果から短期大学での学びが有用であることを再確認する。

そこで、

短期大学全体の状況を明らかにするため、短期大学生調査 (*Tandaiseichosa*) を用いた分析を行う。

また、特に近年の動向を確認するため、単年度データだけでなく、3年分のデータによる経年分析を行う。

# 短期大学生調査 (*Tandaiseichosa*)とは

・短期大学基準協会調査研究委員会が、「短期大学における主体的改革・改善に資する自己評価方法に関する調査研究」の課題の下、「**短期大学における学習効果測定法の開発**」として、2008年より実施する学生調査。  
2014年に日本の短期大学の実情に合わせ、全面改訂され、現在に至る。

・「自己点検・評価の資料となって認証評価への対応に役立つだけでなく、自校の強みや弱みを把握」することが可能。(短期大学生調査パンフレットより)

・調査費用は学生1人当たり150円(例:300人の場合、45,000円)  
学科専攻課程別は1学科2,700円

# 短期大学生調査 (Tandaiseichosa) の概要

## 調査時期

2015年度：2015年11月上旬～12月上旬

2016年度：2016年11月上旬～12月上旬

2017年度：2017年9月上旬～12月上旬

## 調査参加校と調査参加人数

2015年度：59校／18,532名

2016年度：57校／17,703名

2017年度：57校／17,239名

(うち、3年間連続参加校は36校)

調査の詳細は、以下のwebサイトをご覧ください。

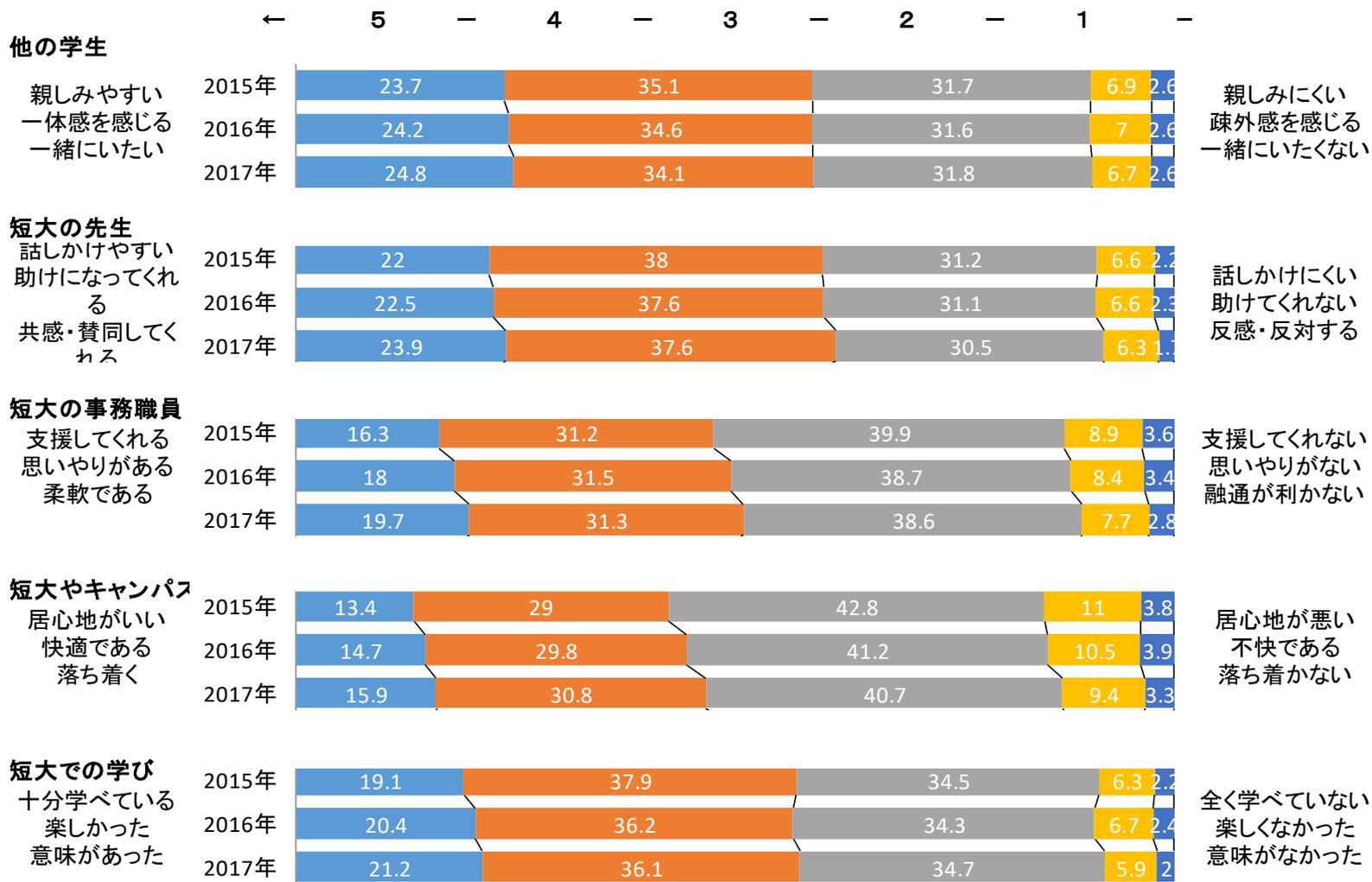
<http://www.jaca.or.jp/service/other/research/tandaiseichosa.html>

# 分析結果

- 短期大学に対する総合評価
- 短期大学に対する満足度
- 短期大学入学後の知識・能力の変化

# 短期大学に対する総合評価(1)

短期大学全体の、総合評価をみると、概ねどの肯定的に捉えている学生が多いが、どちらでもないという回答している学生も多い。



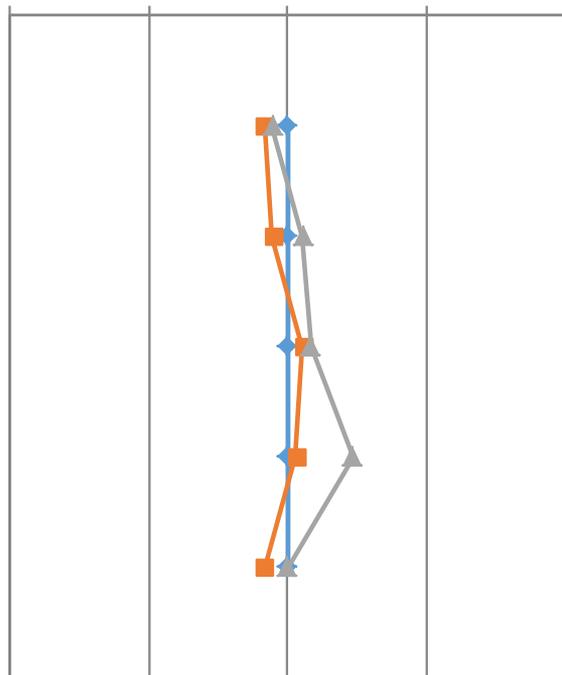
# 短期大学に対する総合評価(2)

3年連続で調査に参加している短期大学は、それ以外の短期大学に比べ、一見評価は低くなっている。しかし、変動が少なく、学生の総合評価が比較的安定している傾向がみられる。

### 3年連続で参加している短期大学

◆ 2015    ■ 2016    ▲ 2017

90      95      100      105      110



### それ以外の短期大学

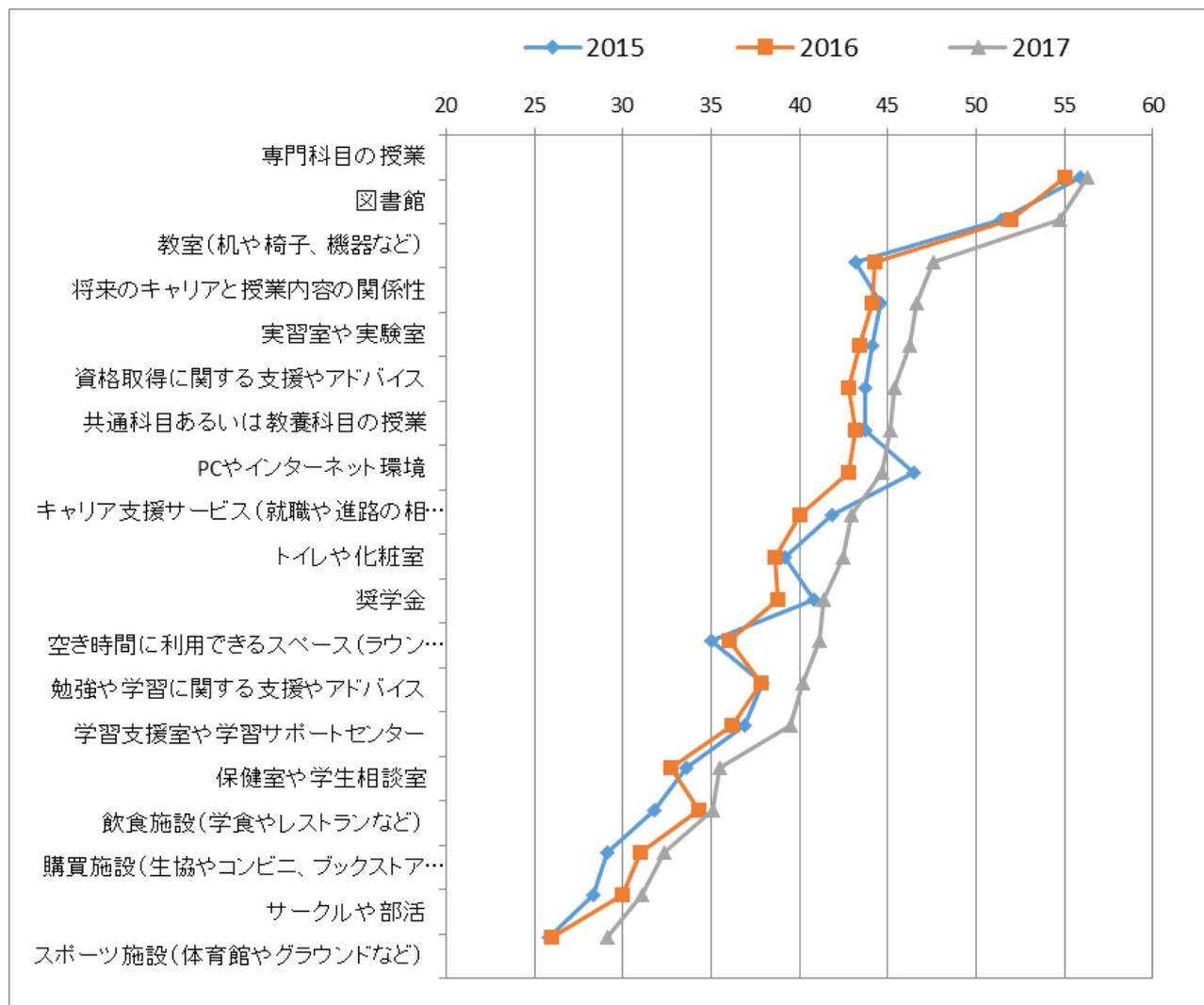
◆ 2015    ■ 2016    ▲ 2017

90      95      100      105      110



# 短期大学に対する満足度(1)

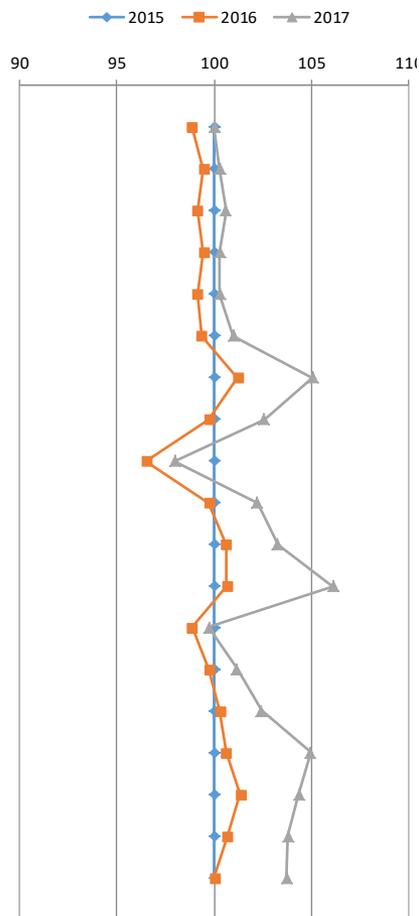
短期大学全体の満足度について確認すると、年々上昇傾向であり、短期大学全体の満足度は少しずつ上昇している。



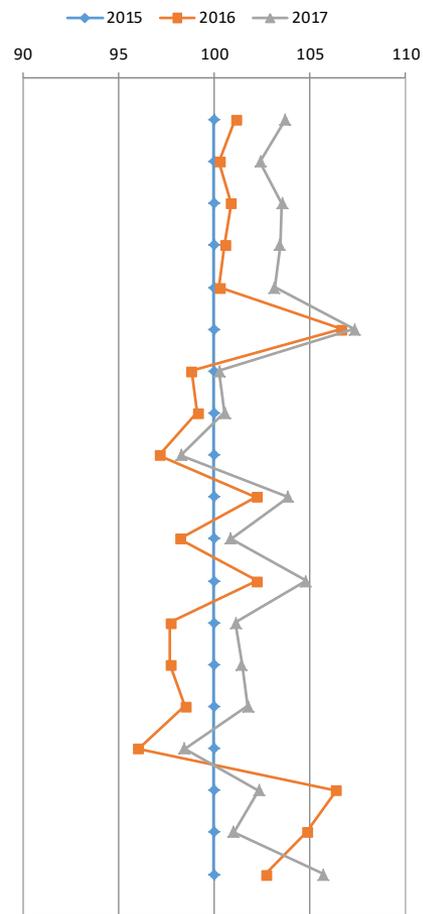
# 短期大学に対する満足度(2)

短期大学に対する満足度は、2016年度に一旦減少したものの、2017年度は上昇傾向にある

3年連続で参加している短期大学

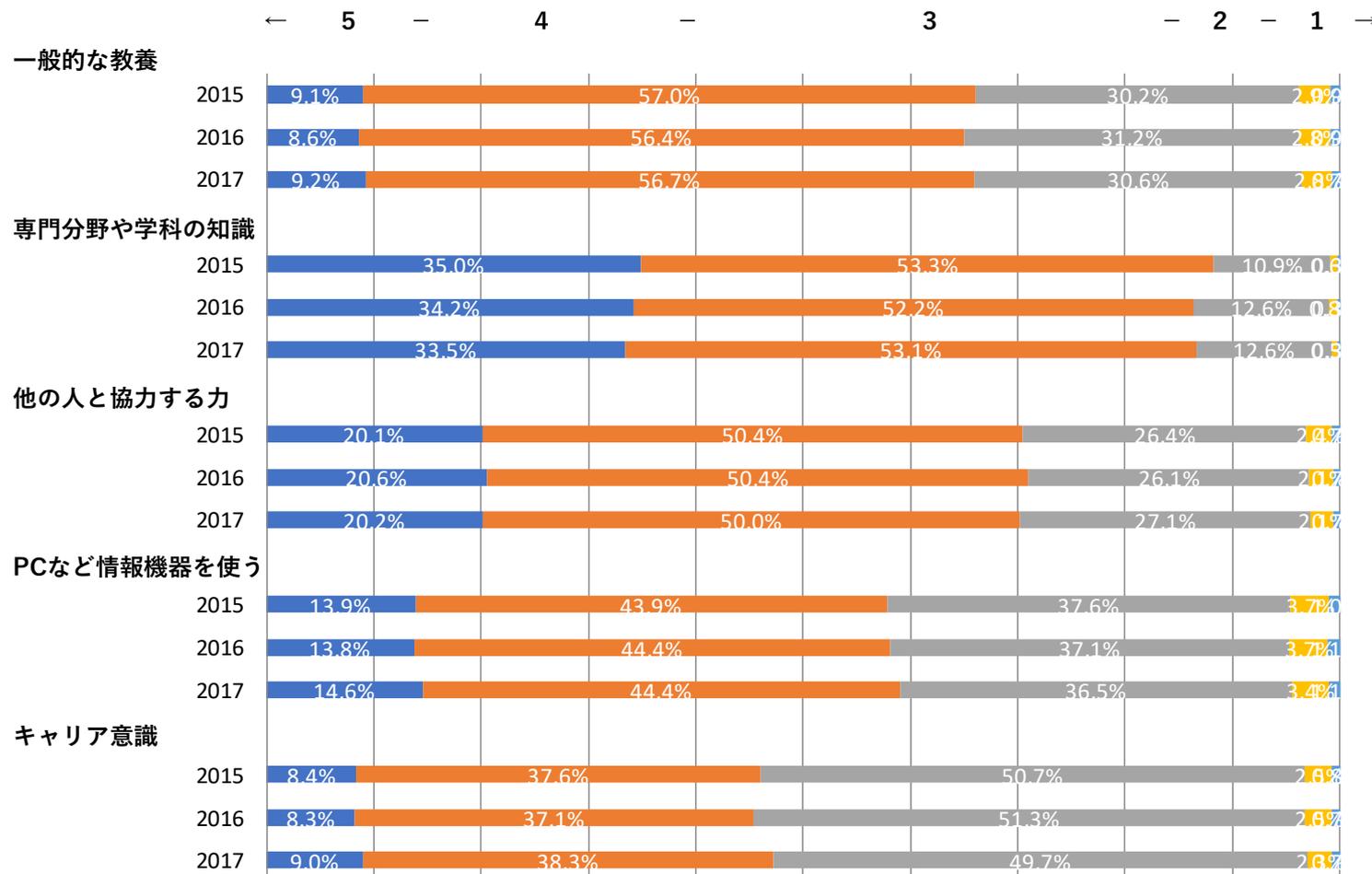


それ以外の短期大学



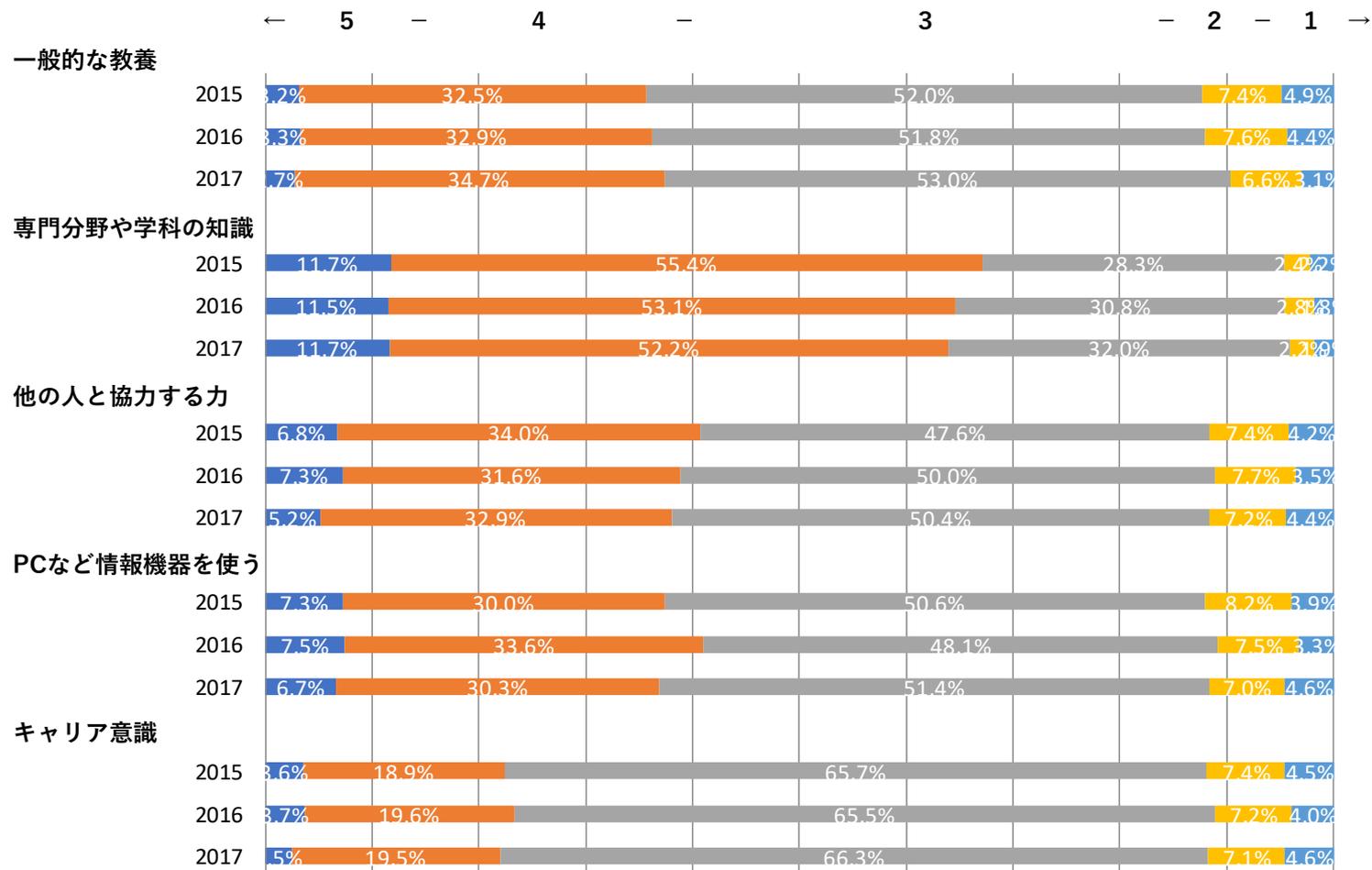
# 短期大学入学後の知識・能力の変化(1)

全体の能力・知識の変化をみると、専門分野の知識や一般的な教養に関する知識等については知識・能力が向上している。



# 短期大学入学後の知識・能力の変化(2)

学習に対する総合評価の低い学生の、能力・知識の変化をみると、専門分野の知識については、大きく向上しているが、一般的な教養やキャリア意識については、変化していない学生が多い。



# 考察

- ・短期大学で学んでいる学生の総合評価は比較的高く、短期大学教育に対して肯定的に捉えている。
- ・しかし、短期大学教育に否定的な学生群を取り出して分析すると、全体に比べ、中間解答の割合が大きく、各短期大学において学生に対する働きかけが必要であると考えられる。
- ・経年分析によって、連続して参加している短期大学に対する学生からの評価は比較的安定しており、継続的に調査を受けることが、学生意識の変化を把握しやすい。

# まとめと今後の検討課題

- ・本研究から、実際に学んでいる学生の視点からは、短期大学における教育が一定程度の評価を得ていることが確認できた。
- ・今後の検討課題として、現行調査では、全体像の把握は可能であっても、個別短期大学の取り組み内容については把握できないため、教学データ等との連携が必要である。
- ・また、実際に社会に出た時に、在学時の学びが有効であったかを確認するために、卒業後評価を実施することが、内部質保証を推進するために必要不可欠である。